

第 8 回エリア会議での意見要旨

【CC ラボ】

● 地元との連携など

- ・ 南陵高校など、地元高校生は貴重な地域の人材、継続的な関係づくりに取り組んで欲しい。都内某所のまちづくりで地元高校との連携が大変役立っている。
- ・ 今まで地域の他の拠点でやっていた活動など、従来、洋光台に根付いている活動と CC ラボをどう結びつけていくか。
- ・ 「カレーキャラバン」のように、「目に見える」「興味を引く」活動が面白い。
- ・ パンフレット等の PR ツールを積極的に活用する。地元の高校に置くなど。

● 情報発信について

- ・ CC ラボ情報はペーパーベースで流して欲しい。多くの住民にとって HP はやはりハードルが高く、情報が欲しい人に届いていない感がある。
- ・

【次世代スタイル WG】

● 地元との関わり

- ・ 企業の提案をどう地元におろしていくのか。
- ・ 企業の提案は地元へ、早め早めに周知して欲しい。
- ・ ・エリア全体でやる場合はもちろん、部分的に試行・実験を行うことも考えられ、地域と連携しながら進めたい。例えば Wi-Fi システムなどは、情報コンテンツとして地元との連携が鍵になる。

● ニーズ・シーズの発掘の場

- ・ 企業の既往資源・技術を当てはめるのではなく、一般的な市場調査等ではすくい取れない、新たな地域ニーズを学ぶ場であって欲しい。地域とのつながりや CC ラボのような場を活かすことが重要。
- ・ 「組織」の枠を越えて、個人のパーソナリティを活かせる枠組みができれば。
- ・ 企業はまずシステムありきで提案してくる。地域ニーズにシステムをどう合わせるか、コラボするかが重要。
- ・ 地域ニーズを知る場として、CC ラボ（ロング）を企業に活用してもらいたい。
- ・ 例えばカーシェア等、既に事業として成立している場合は、住民団体や NPO だけではなく企業と連携で行うほうがトラブル対応等の点でやりやすい。地域の課題が企業のリソースと上手く結びついて展開できると、企業にとってもプラス。未知の部分、手探りの部分へのトライアルができるチャンス、ということを企業側に認識してもらえるとよい。

【交通関係】

● 駅前地区のリノベーションについて

- ・ 駅前地区全体で一体的にリノベーションに取り組むべき。それに合わせていろいろな検討が必要だろう。
- ・ 子ども宇宙科学館は洋光台の重要な資源の一つだが、駅に降りて空間的に認識出来ない。例えば科学館へのルートをデザインするなどイメージをつくる。

● 送迎車両について

- ・ 送迎車両の動線、違法停車は以前からずっと駅前広場の問題となっている。
- ・ ロータリーに送迎車が正しく停車をして、人が乗降できる場所はどこにもない。駅の裏側もカーブと丁字路で停車できない。
- ・ アンケートには「送迎車がバス運行の妨害をしている」「送迎車から車道を横切る人が危険」などの意見あり。
- ・ 送迎用のスペースは必要。駅前だけでなく、洋光台エリア全体の住みやすさに関わること。歩いて 15 分の戸建てからは駅への送迎ニーズは必須だろう。

● 自転車に関して

[駅前の駐輪場全般]

- ・ 駅前駐輪場の専有面積が大きすぎる。なくなると印象が大きく変わる。
- ・ 駅前の駐輪場の合理化で利便性も大きくあがるだろう。公共的投資に見合う効果も検証するべき。

[通勤通学利用・回遊的な利用]

- ・ 今、駐輪場を使っているのは通勤通学がほとんど。増やせば増やした分、そのような自転車も増えるだけ。
- ・ 買い物ついでにどこかへ行くなど、回遊性のある使い方ができると面白い。高齢者的には自転車は難しいが、回遊的なニーズはあるだろう。
- ・ 通勤通学など一日置く駐輪場はまとめて地下に効率的にとって、買い物利用は地上面に用意する等の整理をしては。買い物など一時的駐輪の需要は受け止めるべき。

[サイクルロッカー]

- ・ 自転車をカードで簡単に出し入れできるサイクルロッカー的なもののニーズは高い。料金が上がっても利用したい人は多いのでは。

● 実態調査の項目について

- ・ バス便の利用客について。電車で来てバスにのる広域からの乗客もあるようだ。
- ・ 宇宙科学館の案内など、使いやすさに加えて「分かりやすさ」も大事と思う。どういうニーズがあるのかを的確に捉えるアンケートを工夫したい。
- ・ その他調査項目に入りたいことがあったら、事務局に連絡を。

●実態調査の実施について

- ・ 取り組みは横浜市、磯子区と一緒に、調査の時期は中村先生と案や体制を相談しながら、6月以降を目安としたい。
- ・ 調査をするなら家賃や分譲価格の推移なども把握して欲しい。
- ・ 今回は交通関係の項目に絞った調査。3年ごと（次回は平成28年度）のアンケートには入る可能性もあるが。

【アンケート分析】

●重回帰分析について

- ・ 満足度の回帰式をみると、高齢者の環境にかかる変数が一番低くなっているが、これはこれから高齢者の環境を整備しても満足度にはつながりにくい、ということか。
- ・ 満足度は、現状の満足度が全体の満足度にどの程度影響しているかを示す。高齢者の変数が低いのは、現状の高齢者環境があまり整っていないからと認識する。
- ・ むしろ実態を端的に表わしているのは単純集計で、安全安心や環境は7～8割評価されているが、賑わいや高齢者環境は半分程度、ということだろう。

【今後のすすめ方】

●まちの事務局について

- ・ 「まちの事務局」は一体何なのか。実は、何をやるのか「よくわからない」のはいい状態と思う。何をしたらいいのか、皆で考え、だんだんと形を作っていく。
- ・ CCラボを拠点に、イベントも含め上手くいろいろなことをやってくれる事務局ができるといいし、同様の悩みをもつ他の団地での展開につながれば理想的。
- ・ 他の地域で問題になるのは「場所」だが、ここにはCCラボという「場所」がある。あとは運営する人と、資金。
- ・ 出来るだけ多くの人が担ぐお神輿として「まちの事務局」という組織体をつくっていけるといい。特定の人に負担がかかるようでは長続きしないだろう。

以上